

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	木村 紗衣
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 Investigation of the Relationship between 4-Step Walking Distance, 6-m Walking Speed, and 5-Times Sit-To-Stand Test in Patients Undergoing Gastrointestinal Surgery (消化器手術周術期患者における 4 歩歩行距離と 6m 歩行速度、5 回椅子立ち上がりテストの相関についての検討)
	掲載誌 Journal of St. Marianna University 2024;15:53-65
	主査 佐々木 信幸 副査 前畑 忠輝 副査 梅本 久美子
[論文の要旨・価値] サルコペニアは消化器がんの術後予後不良因子であり、早期診断が重要である。Asian Working Group for Sarcopenia 2019 では身体機能評価として 6m 歩行速度検査 (6mWT) を推奨しているが、6m のレーンが必要なため煩雑である。先行研究で 6mWT と 3 歩歩行距離とに相関が認められたが、奇数歩では歩幅の左右差などの混入もあり得るため、本研究では 4 歩歩行距離と 6mWT・5 回椅子立ち上がりテストとの相関について検討した。2023 年 10 月から 2024 年 5 月に聖マリアンナ医科大学病院消化器・一般外科に入院中の、歩行自立の 20 歳以上の症例 50 名を対象に、性別・年齢・身長・体重・脚長・握力・プレアルブミン (PA)・Prognostic Nutritional Index (PNI)・Psoas Muscle Index (PMI)・Skeletal Muscle mass Index (SMI)・6mWT・4 歩と 3 歩歩行距離・5 回椅子立ち上がりテストを調査した。対象の平均年齢は 66.2 歳で、SMI は男性で 7.57kg/m²、女性で 5.80kg/m²、PMI は男性で 5.54cm²/m²、女性で 3.97cm²/m²であった。6m 歩行速度は平均 1.22m/sec で、3 歩・4 歩歩行距離はそれぞれ平均 1.87m・2.55m であった。サルコペニアの診断を満たすのは 50 名中 8 名であった。4 歩歩行距離と 6mWT は相関係数 0.72 で相関し (P<0.0001)、サルコペニア基準を満たす 1m/sec 以下の歩行速度に該当する 4 歩歩行距離のカットオフは 2.24m であった。歩行速度が 1.0m/sec 未満の 10 例と 1.0m/sec 以上の 40 例とで比較したロジスティック回帰分析では、4 歩歩行距離は 6mWT の独立した説明因子であった。これまで身体機能評価に 6m の平地が必要であったのを、外来診察室内でも気軽に行える feasibility を提示した研究であり、有意義である。広い分野で今後の発展が期待できる論文と考えられた。	
[審査概要] 主査 1 名、副査 2 名、陪席者 5 名のもと審査を行った。直立姿勢からの 1 歩目は本来の 1 歩ではないなどの問題点が質疑応答で指摘されたが、それらの制限については適切な考察と展望が得られ、カットオフ以下ならより詳細な評価に繋ぐなど、スクリーニング検査として幅広い有益性が認められた。本論文の引用文献の一部を用いて英語読解能力を審査した。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] プレゼンテーション資料は簡潔でわかりやすく、無駄のない流暢な説明であった。今後の発展についても具体性が高く認められた。英語読解は研究遂行に問題ない能力であった。学位 (博士) 授与に値すると判断した。	